選考試験 専門記述式問題（民俗学芸員（民俗学））

次の各問について、解答せよ。

問題１

次の用語や行事等について、民俗学の観点から説明しなさい。

① 正月の雑煮
② ももて祭り
③ 八朔（ハッサク）行事
④ 風流踊
⑤ 地芝居（地狂言）
⑥ 巡礼
⑦ 回想法と民俗資料の活用
⑧ 民俗資料の文化財レスキュー活動

問題２

宮本常一は瀬戸内地方（山口県）の出身で、40 年以上にわたって日本中を調査した民俗学者として知られているが、彼の調査研究活動の特徴や業績を述べるとともに、『探検と冒険：朝日講座７』（朝日新聞社、1972 年）で論じた「調査地被害」について、その要旨を説明しなさい。

問題３

2016 年にユネスコ無形文化遺産への登録が決定した「山・鉾・屋台行事」について説明するとともに、瀬戸内地方の屋台行事の特徴を述べなさい。

問題４

1973 年に開館した香川県立の広域資料館である「瀬戸内海歴史民俗資料館」は、瀬戸内地方の漁撈用具や船大工用具など約 6,000 点に及ぶ重要有形民俗文化財を、県域を越えた広域から収集している。こうした広域資料館の意義や役割、資料活用の責務について述べなさい。

問題５

あなたは学芸員として「瀬戸内地方の民俗文化」についての展覧会において、来館者に多様な瀬戸内文化の一端を理解してもらうことを目的として、瀬戸内地方の特徴的な民俗文化を１つ取り上げて、展覧会全体の中で１つのコーナーを企画することとなった。そのコーナーのテーマ名とその展示趣旨・内容を記しなさい。

問題６

現在、全国各地で限界集落化が進み、社会機能の維持や祭り・行事などの民俗文化の存続が危ぶまれている。また、各地の博物館や民俗資料館がこれまで収集してきた民俗資料は、高度経済成長期以前に製作・使用されてきたものが多くを占めており、その収集分野には偏りがある。

こうした現状や民俗資料の製作者・使用者の高齢化、民俗学の現在学としての特性などを踏まえ、今後の公立博物館の民俗資料（有形・無形）収集の方向性や調査研究の重点の置き方について、あなたが考えるところをその理由とともに具体的に述べなさい。